

令和 7 年 6 月 19 日現在

機関番号：32692

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2024

課題番号：21K11320

研究課題名（和文）腎臓リハビリのコアコンピテンシーの解明と効果的実践のための教育ストラテジーの構築

研究課題名（英文）Elucidating Core Competencies in Renal Rehabilitation and Developing Educational Strategies for Effective Practice

研究代表者

忽那 俊樹（Kutsuna, Toshiki）

東京工科大学・医療保健学部・准教授

研究者番号：60805563

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000 円

研究成果の概要（和文）：慢性腎臓病の進行予防においては、腎臓リハビリテーション（腎臓リハビリ）が有効であるとされているが、それを体系的に学べる教育体制は未整備であり、腎臓リハビリを実践できる医療人材の育成が十分とは言えない。本研究では、腎臓リハビリの標準的な教育方法の確立を目指して、腎臓リハビリの核となる要素の検証と、わが国の理学療法士養成校における教育の現状調査を行った。その成果として、3編の原著論文が掲載された。加えて、教育資源として5冊の書籍、4編の総説論文、9本のオンライン教材（動画）を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

各種ガイドラインやステートメントにおいて腎臓リハビリの有効性は示されているものの、それを実践する医療人材の育成に関する方法論については、これまで十分に検討されてこなかった。本研究では、腎臓リハビリの核となる要素を明確化し、それらを反映した教育資源を作成することができた。これらの教材を用いて腎臓リハビリを学ぶことで、効率的かつ効果的な学習が可能となり、適切な腎臓リハビリの実践につながると考えられる。ひいては、慢性腎臓病を有する人々の健康増進に大きく貢献することが期待される。

研究成果の概要（英文）：Renal rehabilitation has been recognized as an effective intervention for preventing the progression of chronic kidney disease. However, a structured educational system for systematically acquiring knowledge and skills in this field remains underdeveloped, and the number of healthcare professionals adequately trained to implement renal rehabilitation is insufficient. The present study aimed to establish a standardized educational framework for renal rehabilitation by identifying its core components and conducting a nationwide survey on the current state of education in physical therapist training programs in Japan. As outcomes of this research, three original peer-reviewed articles were published. Furthermore, a series of educational materials was developed, including five textbooks, four review articles, and nine online instructional videos.

研究分野：リハビリテーション

キーワード：腎臓リハビリテーション コア・コンピテンシー 教育 オンライン 慢性腎臓病 透析 動画 運動

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

慢性腎臓病（CKD）は、国内で約 1,330 万人が罹患している。特に重症化して透析治療を受ける患者は 34 万人に急増しており、透析にかかる年間医療費は 1 兆 6,000 億円に達している。CKD は心血管疾患や脳血管疾患といった二次的疾患の原因にもなり、医療費や介護費の増加が社会保障財政を圧迫する恐れがある。こうした背景から、CKD の進行予防は超高齢社会における重要な社会的課題とされている。

近年では、運動療法が腎機能の低下や合併症の予防に有効であるというエビデンスが蓄積されており、「腎臓リハビリテーション（腎臓リハビリ）」への関心が高まっている。しかし、腎臓リハビリを体系的に学べる教育体制は整備されておらず、専門的な知識と技能を備えた人材が不足している。全国の CKD 患者が腎臓リハビリの恩恵を享受するには、医療専門職養成校における卒前教育から現職者へのリカレント教育までを含む、持続的かつ体系的な教育環境を整え、腎臓リハビリを適切に実践できる人材を育成することが喫緊の課題となっている。

2. 研究の目的

本研究の主題は、確実な効果が期待できる腎臓リハビリの標準的な教育ストラテジーを構築することである。この主題の達成に向けて、以下の 3 つの目的に基づき、研究を計画・実施した。

- (1) 腎臓リハビリのコア・コンピテンシーを明らかにし、教育プログラムの核となる知識および技能の標準化を図ること。
- (2) 上記の内容を基盤として、全国どこでも利用可能な教材（オンライン教材を含む）を作成すること。
- (3) 教育プログラムの効果を検証し、その成果に基づいて教材をブラッシュアップし、確実に効果が得られるよう改善すること。

3. 研究の方法

(1) 腎臓リハビリのコア・コンピテンシーの解明

以下の方法により、アンケートを用いた全国調査を実施した。

研究デザイン：修正 Delphi 法を用いて、アンケートを 3 回反復した。合意形成の基準は、70%以上の同意とした。アンケートの回答は、インターネットを用いて匿名で実施した。

対象：腎臓リハビリテーションの有資格者 447 名を対象とした。

アンケート内容：腎臓リハビリに関する成書やガイドラインのなかから質問項目を選定した。具体的には、腎臓リハビリに関する知識・技能として、腎臓リハビリ総論に関する 9 項目、CKD の病態生理に関する 20 項目、CKD の定義・診断・重症度分類に関する 9 項目、腎代替療法に関する 8 項目、運動療法に関する 17 項目、食事療法に関する 10 項目、薬物療法に関する 14 項目、看護ケア・患者教育・日常生活支援に関する 8 項目、認知・精神・心理的サポートに関する 7 項目、および運営・管理に関する 4 項目について、腎臓リハビリに含まれると考える分野を複数回答式で調査した。

(2) 腎臓リハビリに関する教材の開発

教科書や参考書、総説論文の執筆を積極的に行い、腎臓リハビリに関する教材を作成した。さらに、オンライン教材として腎臓リハビリに関する動画の撮影・制作も行った。動画コンテンツについては、日本腎臓リハビリテーション学会の会員とも連携し、医療現場で求められている内容を精選して教材化した。

加えて、完成した教材を理学療法士養成校に在籍している大学生に視聴してもらい、感想や意見を収集することで、教材をブラッシュアップするうえでの参考として役立てた。

(3) 腎臓リハビリに関する教材を用いた教育効果の検証

以下の方法により、アンケートを用いた全国調査を実施した。

研究デザイン：横断研究として、1 回限りのアンケート調査を実施した。回答はインターネットまたは郵送により受け付け、記名式で行った。

対象：全国の理学療法士養成校 277 校を対象とした。

アンケート内容

- ・養成校の概要に関する質問
- ・回答者に関する質問
- ・教育内容に関する質問
- ・腎臓リハビリ教育に関する意見聴取

教育内容に関する質問としては、呼吸器・循環器・内分泌・代謝・消化器・がん・腎・泌尿器疾患など各疾患を対象としたリハビリテーションに関する授業の実施有無、対象学年、コマ数を尋ねた。さらに、腎臓リハビリに関する授業で扱っている具体的内容や、学生時代および卒業後に腎臓リハビリを学ぶ必要性についての認識を聴取した。

表 腎臓リハビリを実践するうえでのミニマムスタンダード

腎臓リハビリテーション総論

腎臓リハビリの定義、腎臓リハビリのエビデンス、身体障害者福祉法における腎臓機能障害の定義、内部障害ならびに腎臓機能障害の統計、わが国の透析療法の統計、腎臓リハビリにおけるチーム医療と医療連携、腎臓リハビリを担う人材育成方法、腎臓リハビリテーション指導士制度の概要、リハビリテーションの概念、国際生活機能分類の概念

CKDの病態生理

腎臓の構造、腎臓の機能、CKDの自覚症状と身体所見、尿毒症の所見、CKDの危険因子と進行因子、急性腎障害とCKDの関連、腎臓と全身的障害の関係、おもな腎臓病、おもな合併症・併存疾患、管理目標値（血圧、糖尿病、脂質、貧血、CKD-MBD、カリウム、酸塩基平衡、体液量、尿毒症、栄養）

CKDの定義・診断・重症度分類

CKDの定義と診断、CKDの重症度分類、腎機能の尿検査、腎機能の血液・生化学検査、糸球体濾過量の推算式

腎代替療法

腎代替療法と保存療法、腎代替療法の意志決定支援、治療管理（血液透析、腹膜透析、腎移植）日常生活管理（血液透析、腹膜透析、腎移植）保存の腎臓療法の概念、パスキュラーアクセスのケアに関する指導

運動療法

評価法（運動耐容能、筋力、移動能力・パフォーマンス、フレイル、ADL、身体活動量、日常生活活動の困難感）身体活動や運動の代謝当量、運動生理学、運動の禁忌とリスク層別化、運動処方の原則、具体的処方（有酸素運動、レジスタンストレーニング、バランストレーニング）透析患者における運動時間帯の工夫、運動中のリスク管理、運動過負荷の判断基準、身体活動量の指導、アドヒアランス向上のための運動指導

食事療法

評価法（栄養状態、Protein energy wasting、サルコペニア、たんぱく質摂取量）摂取基準（エネルギー、たんぱく質、食塩、カリウム、リン、透析患者における水分）献立・調理法の指導、CKDの病態・重症度に合わせた栄養指導

薬物療法

使用される薬剤と注意点（血圧管理、糖尿病管理、脂質管理、貧血管理、CKD-MBD管理、カリウム管理、酸塩基平衡管理、体液量管理、尿毒症管理）腎機能低下時の薬物治療の注意点、薬剤性腎障害と腎障害性薬物、アドヒアランス向上のための服薬指導、お薬手帳の活用

看護ケア・患者教育・日常生活支援

自覚症状・身体所見の確認、日常生活管理の確認、指導（セルフモニタリング、内服管理、食事管理、運動療法）社会的サポート体制構築、多職種とのコーディネーション、CKDの病態・重症度に合わせた日常生活管理の調整

認知・精神・心理的サポート

評価法（意識状態、認知機能、不安・抑うつ状態、QOL）家族・ソーシャルサポート体制の確認

運営・管理

腎臓リハビリの診療報酬制度、かかりつけ医と腎臓専門医の連携、腎臓専門医に紹介するタイミング、患者急変時の対応

4. 研究成果

（1）腎臓リハビリのコア・コンピテンシーの解明

3回のアンケートのうち、117名が1回目を完遂、101名が2回目を完遂、最終的に93名が3回目を完遂した。1回目のアンケートを完遂した回答者のなかで最も多かった属性としては、男性が94名（80.3%）、40歳台が43名（36.8%）、理学療法士が79名（67.5%）であり、職種の経験年数の中央値は15年であった。

腎臓リハビリに含まれると考える上位5分野は、運動療法116名（99.1%）、患者教育110名（94.0%）、食事療法107名（91.5%）、水分管理99名（84.6%）、および精神・心理的サポート99名（84.6%）であった。

腎臓リハビリテーション総論に関する10項目中10項目、CKDの病態生理に関する20項目中19項目、CKDの定義・診断・重症度分類に関する9項目中5項目、腎代替療法に関する10項目中10項目、運動療法に関する20項目中19項目、食事療法に関する12項目中12項目、薬物療法に関する14項目中13項目、看護ケア・患者教育・日常生活支援に関する9項目中9項目、認知・精神・心理的サポートに関する7項目中5項目、および運営・管理に関する4項目中4項目、合計106項目が腎臓リハビリを実践するうえでのミニマムスタンダードとして選定された（表）。

本研究から得られた腎臓リハビリのミニマムスタンダードは世界初の知見であり、腎臓リハビリに関わる医療者のコア・コンピテンシーとして教育現場で利用できる指標と考えられた。

（2）腎臓リハビリに関する教材の開発

書籍として、以下の5冊の分担著者として執筆し、作成に携わった。

- ・ わかる！できる！腎臓リハビリテーション Q&A . 2021 ; 医歯薬出版（担当部分： 腎臓リハビリテーションの実際 , pp.116-121）
- ・ Crosslink basic リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学 . 2021 ; メジカルビュー社（担当部分：腎臓リハビリテーション , pp.190-197）

- ・腎臓病療養指導士のためのCKD 指導ガイドブック．2021；東京医学社（担当部分：身体活動量の評価，日常生活動作（ADL）の評価，pp.128-131，130-134）
- ・いまさら訊けない！透析リハビリテーションの考えかた，やりかた Q&A．2024；中外医学社（担当部分：透析中運動療法，pp.79-86）
- ・患者指導に役立つ！体操療法オールブック エビデンス&プラクティス 改訂第2版．2024；メジカルビュー社（担当部分：心疾患患者を対象とした体操，pp.206-215）

総説論文として、以下の4編を筆頭著者・共同著者として執筆した。

- ・忽那俊樹．腎臓リハビリテーションのスタートアップ：理学療法士の視点．日本腎臓リハビリテーション学会誌．2022；1(2)：134-145．
- ・忽那俊樹，他．透析患者のフレイルと腎臓リハビリテーション．日本透析医会雑誌．2023；38(2)：182-191．
- ・河野健一，忽那俊樹，他．リハビリテーション総論（身体機能評価と運動療法・運動処方の方の理論）．Monthly Book Medical Rehabilitation．2023；294：30-36．
- ・忽那俊樹，他．慢性腎臓病患者の身体機能と日常生活活動．Jpn J Rehabil Med．2024；61(5)：343-348．

オンライン教材として、腎臓リハビリに関する動画を9本制作し（うち、以下の4本は研究代表者が企画から制作までを全て担当した）、日本腎臓リハビリテーション学会のホームページのなかで2023年7月に一般公開した（現在は、会員限定公開となっている）。

- ・SPPBの測り方（図1）
- ・バランステストの実施方法
- ・歩行テストの実施方法
- ・椅子立ち上がりテストの実施方法

理学療法士養成校に在籍する大学生12名（3年生6名、4年生6名；男性6名、女性6名）を対象として、腎臓リハビリに関する書籍と動画に対する感想や意見を聴取した。

その結果、大学生が腎臓リハビリに関する学習を進めるうえで書籍に求める条件として、文章が容易であること、図表が多いこと、厚みが薄いこと、ならびに情報量が多いことに優先度が高いと回答された。一方、動画コンテンツに求める条件としては、ナレーションが聞き取りやすいこと、動画時間が短いこと、ならびに興味のある内容であることが挙げられた。

教材をブラッシュアップするうえでは、上記の意見を取り入れながら作成することで、学習者の興味を引き、より教育効果の高い教材となる可能性が考えられた。

（3）腎臓リハビリに関する教材を用いた教育効果の検証

～わが国の理学療法士養成校における腎臓リハビリに関する学習の予備的調査～

アンケートを送付した277校のうち、154校から回答を得た（回答率55.6%）。154校のうち、123校（79.9%）が「腎臓リハビリに関する授業を実施している」と回答した（腎臓リハビリ教育群と定義）。

腎臓リハビリ教育群と腎臓リハビリ非教育群との間には、地域差が認められた。腎臓リハビリ教育群は腎臓リハビリ非教育群と比べて、内分泌・代謝疾患患者、消化器疾患患者、およびがん患者を対象としたリハビリテーションに関する授業を実施している割合が高値であった。

腎臓リハビリ教育群は腎臓リハビリ非教育群と比べて、学生時代および卒業後に腎臓リハビリを学ぶ必要性について「とても必要である」、「やや必要である」と答える教員の割合が高値であった（図2）。

腎臓リハビリ教育群において、腎臓リハビリに関する授業で扱っている具体的内容としては「CKD患者の運動療法」、「CKDの定義・診断・重症度分類・検査」、「腎臓リハビリテーション総論」が回答の上位であった（図3）。

腎臓リハビリ非教育群において、腎臓リハビリに関する授業を行わない理由としては「他に優先的に教える分野がある」、「時間数が足りない」、「教員の専門でない」が回答の上位であった。

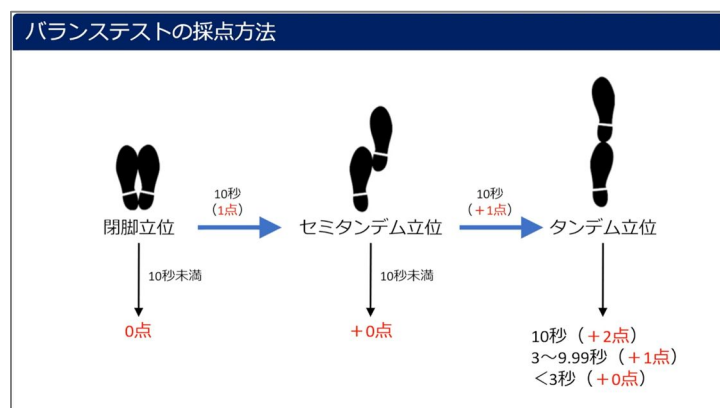


図1 「SPPBの測り方」動画の一場面

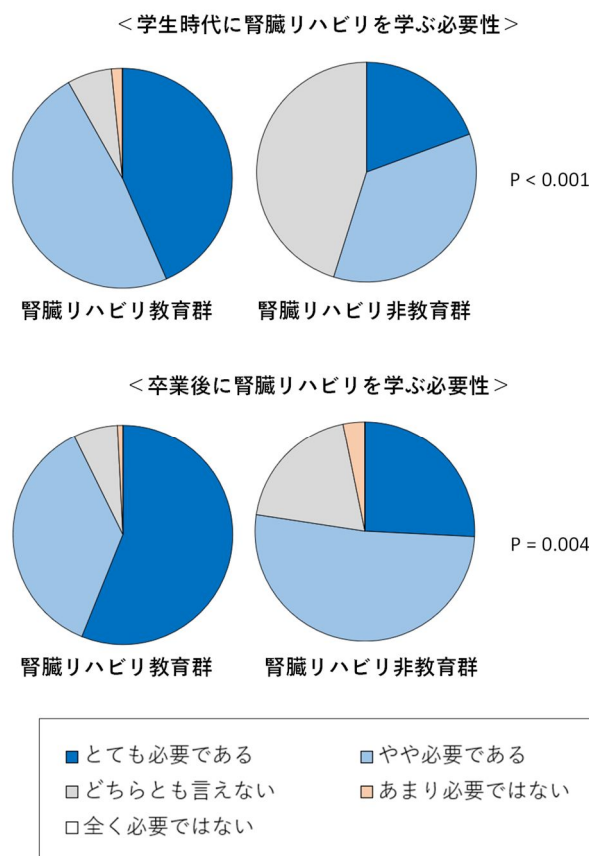


図2 学生時代および卒業後に腎臓リハビリを学ぶ必要性

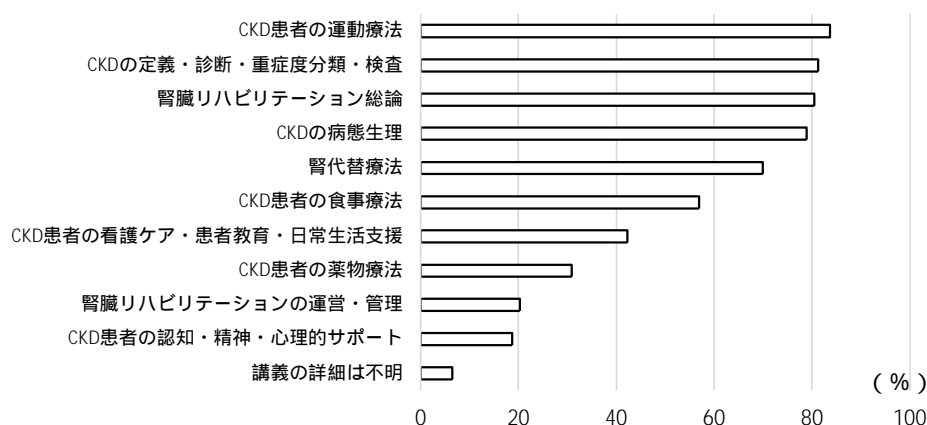


図3 腎臓リハビリに関する授業で扱っている具体的内容

わが国の理学療法士養成校において、腎臓リハビリに関する授業を実施している割合は約80%であった。一方で、他職種の医療専門職養成校における授業実施の状況は明らかでなく、腎臓リハビリ教育の現状を把握するためには、さらなる調査が必要と言える。加えて、本研究で作成した教材を用いて、学生および現職者を対象に腎臓リハビリに関する教育プログラムを実施し、その教育的効果を実証することが、今後の課題として残されている。

超高齢社会を迎え、腎臓リハビリに関する医療制度の整備が進みつつあるわが国においては、腎臓リハビリを実践できる医療者を育成するための標準的な教育プログラムを確立していくことが、今後ますます求められると考えられる。

< 引用文献 >

忽那俊樹，他．腎臓リハビリテーションの実践に必須な知識・技能のミニマムスタンダード：修正 Delphi 法による合意形成．日本腎臓リハビリテーション学会誌．2023；2(1)：118-138．

Kutsuna T, et al. Renal rehabilitation learning in Japanese physical therapy schools: a fact-finding study. Ren Replace Ther. 2024; 10: 9.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 忽那俊樹、松永篤彦	4. 巻 61
2. 論文標題 慢性腎臓病患者の身体機能と日常生活活動	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Jpn J Rehabil Med	6. 最初と最後の頁 343-348
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2490/jjrmc.61.343	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsunaga Yusuke, Suzuki Yuta, Yamamoto Shohei, Imamura Keigo, Yoshikoshi Shun, Harada Manae, Kutsuna Toshiki, Kamiya Kentaro, Yoshida Atsushi, Ichikura Kanako, Fukase Yuko, Murayama Norio, Tagaya Hirokuni, Matsunaga Atsuhiko	4. 巻 9
2. 論文標題 Interactional effects of depressive symptoms and physical function on daily physical activity in ambulatory patients receiving hemodialysis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Renal Replacement Therapy	6. 最初と最後の頁 28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s41100-023-00485-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 忽那俊樹、松永篤彦	4. 巻 38
2. 論文標題 透析患者のフレイルと腎臓リハビリテーション	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本透析医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 182-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野健一、忽那俊樹、松永篤彦	4. 巻 294
2. 論文標題 リハビリテーション総論（身体機能評価と運動療法・運動処方理論）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Monthly Book Medical Rehabilitation	6. 最初と最後の頁 30-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 Kutsuna Toshiki、Otohe Yuhei、Matsuzawa Ryota	4．巻 10
2．論文標題 Renal rehabilitation learning in Japanese physical therapy schools: a fact-finding study	5．発行年 2024年
3．雑誌名 Renal Replacement Therapy	6．最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s41100-024-00525-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 忽那俊樹	4．巻 1
2．論文標題 腎臓リハビリテーションのスタートアップ：理学療法士の視点	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本腎臓リハビリテーション学会誌	6．最初と最後の頁 134-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 忽那俊樹、小坂志保、渡部祥輝、安藤康宏、大山恵子、河野健一、瀬戸由美、高田亜紀、飛田伊都子、松永篤彦	4．巻 2
2．論文標題 腎臓リハビリテーションの実践に必須な知識・技能のミニマムスタンダード：修正Delphi法による合意形成	5．発行年 2023年
3．雑誌名 日本腎臓リハビリテーション学会誌	6．最初と最後の頁 118-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 24件 / うち国際学会 0件）

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 腎臓リハビリテーションのすゝめ～多職種連携と患者介入の実際～
3．学会等名 CKD地域医療セミナー in GIFU（招待講演）
4．発表年 2024年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 身体機能評価と運動療法
3．学会等名 第4回腎臓リハビリテーションガイドライン講習会（招待講演）
4．発表年 2024年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 サルコペニア・フレイルを予防するための生活管理
3．学会等名 第54回日本腎臓学会東部学術大会（招待講演）
4．発表年 2024年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 透析患者の理学療法
3．学会等名 ゼロから学べる糖尿病と慢性腎臓病患者の理学療法（招待講演）
4．発表年 2024年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 腎臓リハビリテーションのいまむかしみらい - リスク管理と理学療法士ができること・やるべきこと -
3．学会等名 第30回香川県理学療法士学会（招待講演）
4．発表年 2025年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 透析患者に対する腎臓リハビリテーション～運動療法を中心に
3．学会等名 第28回県南血液浄化セミナー（招待講演）
4．発表年 2025年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 高齢者のトレーニングにつなげるための運動生理学 - 慢性腎臓病
3．学会等名 一般社団法人湘南運動科学研究所セミナー（招待講演）
4．発表年 2025年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 基礎から学ぶ腎リハ～有酸素運動の基礎と実践
3．学会等名 第15回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4．発表年 2025年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 身体機能評価と運動療法
3．学会等名 第3回腎臓リハビリテーションガイドライン講習会（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 研究疑問と研究デザインと研究倫理
3．学会等名 糖尿病理学療法に関するエビデンス構築を目指した研究支援セミナー「基礎編」（招待講演）
4．発表年 2024年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 慢性腎臓病 - 高齢者のトレーニングにつなげるための運動生理学 -
3．学会等名 一般社団法人湘南運動科学研究所セミナー（招待講演）
4．発表年 2024年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 保存期の運動療法の実際
3．学会等名 第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4．発表年 2024年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 腎臓リハビリテーション指導士に求められる知識・技能のミニマムスタンダード
3．学会等名 第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4．発表年 2024年

1．発表者名 音部雄平、松沢良太、忽那俊樹
2．発表標題 正確な身体機能評価の重要性およびYouTubeビデオ作成の取り組み～理学療法士編～
3．学会等名 第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4．発表年 2024年

1．発表者名 忽那俊樹、音部雄平、松沢良太
2．発表標題 理学療法士養成校における腎臓リハビリテーションの学習に関する実態調査
3．学会等名 第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
4．発表年 2024年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 CKD患者の運動療法とフレイル
3．学会等名 腎不全チーム医療協議会Kicos第48回CKD・腎移植に関する勉強会（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 急性期・回復期 理学療法を学ぶ 循環器疾患・腎疾患
3．学会等名 第57回日本理学療法学術研修大会inとやま（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 運動療法（運動処方）の理論
3．学会等名 第1回腎臓リハビリテーションガイドライン講習会 兼 腎臓リハビリテーション指導士試験受験講習会（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 理学療法士が考えるCKD患者の健康寿命
3．学会等名 第5回腎不全チーム医療協議会（Kicos）学術大会（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 運動療法（運動処方）の理論
3．学会等名 第2回腎臓リハビリテーションガイドライン講習会（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 慢性腎臓病と運動生理学の関係を考える
3．学会等名 一般社団法人湘南運動科学研究所セミナー（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 透析中に実施する運動時の循環動態（過去の研究より）
3．学会等名 第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 CKD患者に対する運動療法：病期と身体機能を考慮した実践的アプローチ
3．学会等名 第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 透析患者の理学療法
3．学会等名 理学療法士講習会（基本編・理論）症例を通じて学ぶ糖尿病と慢性腎臓病患者の理学療法（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 忽那俊樹
2．発表標題 ADLとQOLの標準的評価
3．学会等名 第12回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4．発表年 2022年

〔図書〕 計5件

1．著者名 北川淳、忽那俊樹、他31名	4．発行年 2024年
2．出版社 メジカルビュー社	5．総ページ数 256
3．書名 患者指導に役立つ！ 体操療法オールブック エビデンス＆プラクティス 改訂第2版	

1．著者名 加藤明彦、忽那俊樹、他34名	4．発行年 2024年
2．出版社 中外医学社	5．総ページ数 222
3．書名 いまさら訊けない！透析リハビリテーションの考えかた，やりかた Q&A	

1．著者名 上月正博、松永篤彦、忽那俊樹、他86名	4．発行年 2021年
2．出版社 医歯薬出版	5．総ページ数 258
3．書名 わかる！できる！腎臓リハビリテーションQ&A	

1．著者名 上月正博、加賀谷斉、忽那俊樹、他56名	4．発行年 2021年
2．出版社 メジカルビュー社	5．総ページ数 432
3．書名 Crosslink basicリハビリテーションテキスト リハビリテーション医学	

1．著者名 安田隆、忽那俊樹、他51名	4．発行年 2021年
2．出版社 東京医学社	5．総ページ数 256
3．書名 腎臓病療養指導士のためのCKD指導ガイドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究 分 担 者	渡部 祥輝 (Watanabe Yoshiteru) (30838107)	東京工科大学・医療保健学部・講師 (32692)	
	小坂 志保 (Kosaka Shiho) (60634665)	東邦大学・看護学部・准教授 (32661)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------